

第3回および第4回準備会報告

はじめに

倫理問題研究会準備会では平成20年11月10日(月)に第3回準備会を、平成21年1月13日(火)に第4回準備会を(株)開発工営社会議室において開催しました。この2回の準備会では、技術者倫理に関して会員の技術研鑽を図ることを目的として、事例について検討議論されました。ここでは、その概要を報告します。

■第3回準備会の概要

第3回準備会では、(社)地盤工学会「君ならどうする？」出典の事例：「間違っていた調査箇所」と「誰も通らなくなった歩道」を用いて、事例に登場する人物の言動について議論しました。これらの事例については、ご存じの方が多いかと思いますが、簡単に紹介すると事例「間違っていた調査箇所」というのは、雪崩対策の調査設計業務において調査箇所が多いので専門外の技術者に応援を頼んだ結果、危険斜面とされていた隣の斜面を調査対策してしまったというものです。この事例での議論では、専門技術者の取るべき行動やその上司の対応、さらに発注者側の対応などについてその問題点や解決策が話されました。

2つ目の事例「誰も通らなくなった歩道」は、ある町役場が管理する道路において3人の小学生が通学に使うために歩道を新設し、その子供たちが卒業した数年後には誰も通らない歩道が残ったというものです。この事例で問題になったのは、3人の小学生の扱いと費用対効果、それと予算獲得のために担当技術者が行った歩行者の水増しです。これらの事項について会員から活発な意見が出されました。

今後、これらの問題に対する対応の仕方などを、整理する必要があると思います。

■第4回準備会の概要

第4回準備会では、事例検討の前に「倫理問題研究会」の正式発足について議論されました。倫理問題研究会の設立趣旨や活動は、前号で示した本準備会と同様で平成21年度より2年間の活動期間として発足します。本号には、会員募集案内の折込みがあると思いますので、ご興味のある方は申込みください。

今回の事例検討では、1つの事例についてワークショップ形式で行われました。これは、各会員が事例にある問題点やその対応法を紙に書いて貼りだ



ワークショップ形式の会議状況



座長として取りまとめ解説する花田技術士

し、関連するものをグループ化して整理するというものです。用いた事例は、「工事中の地元クレーム対応」というもので、地下鉄駅建設に伴って地元のあある商店主から工事の騒音・振動で店が揺れる、さらには売り上げが減ったというクレームに対して、工事を担当している技術者が行った対応の問題点や今後の取るべき行動を題材にしているものです。準備会代表の花田技術士が座長となってワークショップを取りまとめ、活発な議論がされました。

最後に次回の準備会で検討議論する予定の事例が紹介され、次回3月第2月曜日に開催することを確認して終了しました。

おわりに

準備会での雑談でときどき話題になるのですが、倫理問題と宗教の教えの関係でおもしろい話を見つけました。それは、倫理・道徳と宗教とはまったく相反するものだという考えです。倫理・道徳とは、人間や企業などがこの社会を生きていく上で、秩序をたもつためのものといえます。たとえば、人がけんかをせずに、仲良く暮らすためにはどうすればよ

いかを示したものです。それに対して宗教とは、現実的に役に立つものではないという考えです。たとえば、宗教の言葉に「汝の敵を愛せよ」というのがありますが、もしそれをきちんと守っていたならどんな企業でも一年以内に倒産してしまうだろうということです。

日常や現実の世界では通用しないことを、あえていうところに宗教の言葉の価値がある。人間というものは、放っておくと暴走するもので、そのブレーキになるのが宗教の言葉ではないかということです。

宗教は「できない」ことをいう。一方倫理・道徳は「できる」ことをいう。ですから、倫理・道徳はノウハウというものともつながっていきます。そうすると、倫理問題にはかならず解答があることとなります。倫理問題研究会の腕のみせどころということでしょうか？ 研究会・準備会のさらなる発展に努力したいと思います。

なお、本文の出典は、五木寛之著「運命の足音」です。ご参考になれば幸いです。

(文責：倫理問題研究会準備会委員 日下部祐基)